



地域中核・特色ある研究大学強化促進事業

3 大学連携研究プロジェクト創出支援事業 「過去と未来をつなぐ野生イネ研究」 公開セミナー

プラント・オパールから 食糧としての野生イネを評価する



鹿児島大学



宮崎大学

日時

令和8年 **11月20日** (金)

16:10~17:40

会場

鹿児島大学・郡元キャンパス
学習交流プラザ2F学習交流ホール

※現地開催のみ



【セミナーの概要】

私たちの主食である食用作物のイネは、およそ1万2000年前くらいから、ヒトが数千年をかけて野生のイネを栽培化して誕生したと考えられています。しかし、その栽培化のメカニズムの詳細は解明されていません。特に、当時のヒトが、様々な食料となる植物資源の中から、野生イネを見出した理由となる「食糧としての野生イネの魅力」すなわち「収量や栄養」については、全く研究が進んでいませんでした。また、魅力が解明されても、その成果を栽培化が生じたとされる時代や地域の遺跡調査に反映させることが難しいという状況も研究の進展を遅らせてきました。しかし、イネの細胞化石であるプラント・オパールを活用することで、考古学的な調査や発掘による試料から、当時の野生イネの状況を調べて、現在の野生イネの研究成果を反映できる見通しが得られました。そこで、私たちは、アジアの栽培イネの祖先とされるオリザ・ルフィポゴン（学名: *Oryza rufipogon*）を生育させて、その生産性や栄養価について調査を進めています。このセミナーでは、「ヒトによる野生イネの栽培化」の視点から、野生イネの食糧としての魅力について、具体的な取組と現在までに明らかになった成果を紹介します。



講師

宇田津 徹朗 UDATSU Tetsuro

宮崎大学農学部動植物資源生命科学領域 教授
宮崎大学農学部附属農業博物館 館長・学芸員



イネのプラント・オパール

申込



<https://forms.cloud.microsoft/r/wq898V6uir>
飛び入りのご参加も大歓迎ですが
人数把握のため事前申し込みにご協力ください

【問合せ先】

鹿児島大学
南九州・南西諸島域イノベーションセンター
担当: 南 (ミナミ)
E-mail: minami (at) km.kagoshima-u.ac.jp